

本資料は、有識者会議等における有識者のご意見を事務局で取りまとめたもの（文責・事務局）

中部圏広域地方計画有識者会議委員の主な意見

●奥野信宏座長（中京大学理事）

- ・「成長」「人口増」の2つの観点を言えるのは中部圏の大きな特徴
- ・国土計画や国土政策は谷筋や街筋の文化を守り育てること。「文化」という言葉が大事
- ・共助社会は骨太の方針で成長戦略に位置付けられた。広域地方計画でも重要なキーワード
- ・南海トラフ巨大地震中部圏戦略会議は全国でも先駆的な取組
- ・多種多様な熱源、対流がある。国際的な対流、日本全体の対流、圏域間の対流など
- ・スーパーメガリージョンは熱源そのもの。コンパクト+ネットワークはその圏域が熱源
- ・小さな拠点も熱源、共助社会における多様な主体（NPO等）も熱源のひとつ
- ・「国土の均衡ある発展」は、画一的な国土づくりから「各地域の資源や個性などを活かした均衡ある発展」の意味合いに変わってきている

●伊藤範久委員（中部経済連合会専務理事）

- ・産業面におけるグローバル（大手企業）とローカル（中堅中小企業）の両方の視点が重要
- ・中堅中小企業の人材不足対策、労働生産性向上による給与所得の増加
- ・名古屋（グローバル）と各県の中心都市とその周辺、中山間地（ローカル）を意識する必要
- ・インフラは産業、観光、地方創生、国土強靱化など全ての分野・社会経済活動のベース
- ・中部圏を支える人材育成、産学官民の連携が重要、UIJ ターンの取り込み
- ・具体的な連携のイメージ、姿を描く必要
- ・計画の実効性を高める必要、スケジュール感（目標年次など）が重要、PDCA の実行

<中部・北陸圏連携>

- ・産業分野での中部・北陸圏のそれぞれの強みを活かした戦略的連携、東海北陸コンポジットハイウェイ構想（炭素繊維）、アジア・ユーラシアダイナミズムの取り込み
- ・広域連携を支える東海北陸自動車道の全線4車線化

●内田俊宏委員（中京大学経済学部 客員教授）

- ・国際競争力を高める上でのインフラネットワークの重要性（道路、空港、港湾等）
- ・航空宇宙産業における、B787やMRJ一貫生産体制構築は中部圏のアドバンテージ
- ・中部はものづくりのマザーエリア
- ・コンパクト+ネットワークは中部の車社会を前提に考える必要。「道の駅」の有用性
- ・郊外分散型はコンパクト化を失わせる恐れ

- ・中部の農業資源は特筆すべきもの。昨今の若手従業者の増加傾向、UIJ ターンの取り込み、農業は高齢者の健康寿命を高めるうえでも重要
- ・ものづくりノウハウを活かす農工連携による農業活性化
- ・訪日外国人旅行者の取り込み、中部国際空港と成田・羽田、関空との棲み分け、トランジット機能の強化が重要
- ・中部国際空港の LCC 増便対応、クルーズ船需要増対応
- ・昇龍道プロジェクトは先進的な取組。テーマ性・ストーリー性を持った広域周遊観光が重要
- ・訪日外国人旅行者の注目は、グルメ（日本食）・ショッピング・四季、リピーターは温泉

<中部・北陸圏連携>

- ・産業連携、北陸の医薬品技術と中部のロボット技術の融合・連携、Win・Win の関係構築

●江崎貴久委員（有限会社オズ代表取締役・海の幸とやすらぎの宿「海月」女将）

- ・資源には地域資源、観光資源、自然資源、経営資源の4つ。適切な配分バランスが重要
- ・中部山岳や紀伊半島の山岳地帯から伊勢湾へのつながり、当地域の持つ自然の優位性
- ・地域に住む人の幸福感の見える化、子供達に地域の魅力や個性を伝える教育
- ・インバウンド観光、観光業の国際化、海外実習生・研修生、外国人スタッフ雇用

●大西 隆委員（国立大学法人豊橋技術科学大学 学長・日本学術会議 会長）

- ・地域づくりには「攻め」と「守り」両面の視点、人口減少に「適応」の視点が重要
- ・ものづくりの強みを活かした第3次産業の弱みの克服（ものづくり系サービス産業の創出）
- ・コンパクト化は生活の選択肢を狭めるという懸念、反対意見もある。複数拠点を用意し選択できるという状態も必要。コンパクト化の意義、メッセージを絶えず送り続けることが重要
- ・グローバル製造業の集積を活かした研究開発機能を集約させる施策が必要
- ・戦国から我が国を先導してきた中部の歴史文化は特筆。発信すべき、サムライ・武将文化

●大野 研委員（国立大学法人 三重大学教養教育機構 教授）

- ・コンパクト+ネットワークにより残る広大な面の活用、魅力につなげていくことが重要
- ・守るべく自然環境、風土風景・景観、農山漁村の維持、保全
- ・環境とものづくり、強靱化、地方創生等は対立関係にあり、その融合が重要
- ・生物多様性は中部のアイデンティティとして重要
- ・滞在型観光促進による地域経済への波及

●加藤百合子委員（（株）エムスクエア・ラボ代表取締役）

- ・農業者と需要者、消費者をつなぐ小口青果流通システム構築。農業にも物流の観点が必要

- ・農地の一区画あたりの大規模化による生産性向上
- ・農業を軸とした異業種間連携、農工連携による新産業創出
- ・人材を呼び込むには新しいことにチャレンジしやすい環境整備。中部は保守的とも言われる。
- ・起業を女性の視点からみると、職住近接や子育て環境は重要な要素
- ・技術研修生をはじめ多くの多国籍外国人が居住する地域特性、多文化共生地域としてプランディングできる地域

●木村真樹委員

((公財) あいちコミュニティ財団代表理事、コミュニティ・ユース・バンク momo 代表理事)

- ・地域課題を先取りして解決に取り組む NPO やソーシャルビジネスの質を高める必要。課題解決に挑む前の地域課題と先行事例のリサーチが不可欠
- ・多様な主体による事業の継続性を確保、地域の資金を地域で活かす資金調達や資金循環の仕組みづくりが大切 (資金の地産地消)
- ・共助社会では成果の見える化が重要、成果を可視化することで民間投資が促される
- ・共助社会のキーワードは民間資金、投資を促すには効果を明確にする社会的インパクト評価が重要
- ・企業は資金提供のみならず、育てた人材をボランテアとして輩出し地域課題と向き合う取組が重要

●後藤澄江委員 (日本福祉大学社会福祉学部教授)

- ・中部の女性は「子育てや家事を中心的に担う堅実的なライフスタイル」「家庭と仕事を両立して積極的にキャリア形成、グローバルに活躍」「地域で活躍」など多様なライフスタイル
- ・高齢者を介護の対象でなく、社会貢献してもらう視点が重要
- ・「元気なうちの田舎暮らし」ではなく、「元気なうちの U I J ターン」の視点が重要
- ・超高齢化社会に向けた社会福祉分野と住宅政策等ハード・ソフト連携やインフラ活用の視点が重要
- ・愛知県はしっかりとした NPO が多い。ソーシャルビジネス的な活動を地域社会で支援が重要
- ・市町村合併前の旧地域単位などのコミュニティを大切にしたコンパクト+ネットワーク、「道の駅」が地域情報の重要な発信拠点
- ・グローバル化や外国人増加に伴う安全・安心神話崩壊の懸念、防犯・治安を高めるまちづくり
- ・高齢者の移動手段確保、高齢者ドライバー・交通事故対策と地域づくりが連携する必要

●佐々木眞一委員 (トヨタ自動車 (株) 相談役・技監)

- ・我が国を牽引する技術力、研究力、品質力。中部にはものづくりに係わる全てが揃い、世界中からビジネスチャンスを求めて集まる、そのような視点が重要
- ・2020 東京オリ・パラまでの東京一極集中は現実。それまでに中部のアイデンティティ「これが中部」といえるものを確立することが重要、道路ネットワーク拡充は最重要課題

- ・ICTの進化、中部における自動運転への高い実現性、高齢化社会へのインパクト
- ・テレワーク型就業は、人口減少高齢化社会におけるライフスタイルを大きく変革させるもの
- ・物流は産業競争力強化の大きなポイント。物流を支えるインフラを産業基盤と捉える視点は重要
- ・中部圏と北陸圏の広域連携、物流を支える太い軸が必要
- ・企業労働力のキーワードはダイバーシティ、多様な人材が活躍できる環境整備
- ・産業界が地方創生を考える際して、中山間地の人々の利便性を確保した職場環境整備が重要

●染谷絹代委員（島田市長）

- ・地方創生にとって道路ネットワーク強化は最も重要。道路は人、モノ、情報と文化も運ぶ、量的発展の上で質的な発展につながる
- ・高速交通ネットワークの拡充を活かし成長につなげる地域づくり、土地利用規制に係る柔軟な対応が求められる
- ・大学卒業後10年間で若者のU I Jターンのタイムリミット感。30歳成人式の視点で地元企業とのマッチング
- ・増加する公共施設の維持管理、メンテナンス人材の育成、退職技術者の活用
- ・企業の本社機能や国機関の地方移転
- ・高齢者社会参画は働く場の担い手、次世代の人材育成、地域社会の担い手として位置付要
- ・女性活躍社会の掛け声だけでは人材育成は進まない、女性人材を育成する場の明確化
- ・リニア整備に伴う環境影響の最小限化する取組は重要課題
- ・富士山静岡空港の首都圏バックアップ機能（防災、観光等）の拡充、明確化
- ・訪日外国人旅行者のターゲットとなる国を絞り、ターゲットに合わせた受入環境整備

●高木朗義委員（岐阜大学工学部教授）

- ・大学におけるインフラメンテナンスや防災減災に係る人材育成教育
（岐阜大学ME育成、防災リーダー養成講座）
- ・人材育成に係る地方大学や高校が果たす役割、地元企業や産業と連携した教育が重要
- ・地域防災力の強化、地域防災リーダーの育成が重要
- ・コミュニティ単位での地区防災計画策定、実施に関しては、国等行政支援が不可欠
- ・昇龍道プロジェクトには、リニア開業を踏まえた広域観光交流の観点が不可欠
- ・コンパクト化の理念とは相容れない開発も散見、立地適正化計画には逆線引きの考え方も必要

●辻本哲郎委員（国立大学法人 名古屋大学 名誉教授）

- ・五つの基本方針をどのように連関させるかが重要。戦略として「攻め」だけでなく、国内外への「貢献」も重要。最終的に貢献が戦略になる

- ・国土管理をどのようにマネジメント（経営）していくかの視点が重要、持続性がキーワード
- ・持続性を脅かす要因として資源枯渇、地球温暖化、生物多様性など、
- ・地域の多様性を活かした対流、熱源としてコンストラクトを付け、それぞれの流れの干渉をうまく活用するという視点が重要

●牧野光朗委員（飯田市長）

- ・東京一極集中是正、地方への人口環流の考え方が重要、子育て世代の地方分散受け皿を中部圏が担うべき
- ・リニアによる支店経済衰退（ストロー）の懸念、企業の東京本社・研究開発機能の地方移転
- ・市町村単独での活力維持、発展は困難。横の連携、広域連携、機能補完の視点が重要
- ・「様々な主体」の中で誰が担っていくかを意識することが重要、主体意識を持ち推進する視点
- ・社会インフラ整備と産業基盤整備を戦略的、有機的に結びつけることが重要
- ・地域固有の文化を維持していくことが暮らしや住みやすさにつながっていく
- ・地域ブランド化は農業分野に限らず、ものづくりの付加価値を高めた地域ブランド化も重要

●森川高行委員（国立大学法人 名古屋大学未来社会創造機構 教授）

- ・ものづくりに係る人材育成、大学と産業界の連携
- ・海外からの研修生、留学生は日本のファン、中部のファンを育成することにつながる
- ・海外の高度人材、投資の呼び込みのためには高質なサービスの充実が不可欠
(外国人の生活環境の充実、インターナショナルスクールの拡充等)
- ・国土の守り手としての若者のU I Jターン。空き家対策とU I Jターンを絡めることは重要
- ・ICT、ITSを活用したまちづくりは、高齢化社会の中で重要課題
- ・中部圏は、ものづくりを軸に活力ある都市と、自然に恵まれ地域に根付く歴史文化、都市の中に田舎性溢れる都市・地域が広く分布
- ・名古屋圏（玄関）と周辺都市・地域（奥座敷）が融合・連携した日本の中心地・心臓地帯・心のふるさと、ハートランドを目指すべき
- ・玄関と奥座敷が交通インフラでつながる。中部・北陸9県が一体となった日本のハートランド
- ・「日本のハートランド中部」は、経済成長のエンジン、日本らしさ、暮らしやすさ、歴史文化、リニア、対流の要となる中部の姿そのものを表すもの
- ・モビリティセンターの考え方は中山間地や地方都市における「小さな拠点」そのもの
- ・中山間地域のコンパクト化はどうあるべきか、人を集約化することは地域の歴史観や国土保全の観点からも避けるべき。ネットワークとしての移手段確保や自動運転といった切り口、モビリティセンター構築等の総合的な戦略を立てる必要